

JD プログラムは、日本との既存の学術交流を強化する。

チリ大学は、東京医科歯科大学(TMDU)代表団を迎え入れた。

6月18日水曜日、TMDUの代表団は、チリ大学の重要な会議に Ennio Vivaldi 学長により迎え入れられた。会議は、正規交換留学、研修留学（教授用の留学）、研究留学（ドクター、ポスドク用の留学）を促進すること及び JD プログラムの協定を推進することを目的としていた。

東京医科歯科大学の教授及び学生の代表者の訪問団は、消化器がんの疫学分野における調査のための双方の研究機関の実質的な学術協力の下で、Ennio Vivaldi 学長と会合した。

医学部の副学部長であり、過去に TMDU のメンバーと会合をしたチリ大学最大の権威は、再び TMDU メンバーを迎え入れる喜びを表し、また、JD プログラムは、2つの社会の間で極めて類似している病理学における知識の急速な発展を可能にするという確信を表明した。

「これは、現在行われている取組を拡大することや重要な効果を得ることの一つの機会である」と述べた。

チリ大学は、日本との永続的な知識交流を生む JD プログラムにとっても惹きつけられそして熱意を注いでいる、と学長はつけ加え発言した。

JD プログラムの内容の中で、消化器がん研究は国民の健康のためにも重要であり、それはチリ大学が常に国民のニーズに注意を払い、それらの解決策への研究に努力するという確約を国にすることだと強調した。

これまでも、両大学の既存の協定により、チリ大学で半年間の基礎研究実習を行っている東京医科歯科大学の医学部の生徒たちがいる。さらに、その協定により、消化器学・内視鏡、病理学分野専門の TMDU の医師たちは、癌の診断及び治療の専門的知識・技術をチリ大学の医師が習得することの支援もしている。

現在の東京医科歯科大学の学生の実習は、チリ大学医学部のラス・コンデスキャンパスにおいて行われている。



会議はタワー15の中央サービス支局にて2014年6月18日に行われた。



この会議は、共同の新しい分野(JDプログラム)を始めようとしている。



チリ大学とTMDU間のJDプログラムは学生、教授、研究者らの交流と共同作業であると認識している。



TMDUの医学部4年の6人の学生は、チリ大学医学部ラス・コンデス病院のキャンパスで研究を進めている。

東京医科歯科大学の学生達がチリ大学学長と面会

本会議には、この協定の立案者の一人でラス・コンデス病院の部長であり、医学部の教授でもある Patricio Burdiles 教授、理学部の Juan Carlos Letelier 教授、数理科学部の Eduardo Vera 教授(地震学、鉱業、工学の分野において日本と共同研究の長い歴史をもつ)、国際関係学部長の Pía Lombardo 教授らが同席した。

一方で、東京医科歯科大学の代表者は、浅原弘嗣教授、植竹宏之准教授、吉田丘教授、下田弘二氏、土屋誠氏、河内洋講師、岡田卓也助教及び基礎研究実習の下で 6 か月間チリに滞在している東京医科歯科大学の医学部 4 年生の佐々木愛さん、宮岡双葉さん、杉澤啓吾さん、稲田賢人さん、松本惇奈さん、笠野由佳さんら 6 人であった。

この場で学長は、留学生の 6 人の若者たちへ、医学部にある国際交流 (foreign affairs)、同業組合 (trade association)、科学 (scientific) の学生団体 (student organization) と親密になるように促した。また、学生たちはチリでの滞在期間中の抱負を学長に説明した。

会議は、チリ大学を訪問した親愛なる代表団に Ennio Vivaldi 学長が贈り物を授与し終了した。



本文: Zafiro Fleming

2014 年 6 月 18 日水曜日

写真: Alejandra Fuenzalida